
ヴァルキリー家の娘事情

田浪亜紀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ヴァルキリー家の娘事情

【Nコード】

N4263Z

【作者名】

田浪亜紀

【あらすじ】

主人公、多田野辰巳は暑さが始まったある日、玄関先で金髪の少女、セラフィーナ「ヴァルキリー」と出会った。

その後、辰巳はセラフィにあれこれ巻き込まれイギリスに行くことに。そこでは世界を揺るがす大事件が待っていた。

とある少年の惨劇

時は今から二十年ほど遡る。

とある少年がまだ幼い頃のことだった。

ここはイギリス某所に存在するスラム。

まだ七歳にも関わらず、少年はここで生活をしていた。親はもう他界していた。

少年が生活している環境は決していいとは言えない。見渡すと、あちらこちらに汚水が垂れ流しにされ、無惨にも捨てられた生ゴミが異臭を放っていた。ちらほら見える人影も、元気で活発には見えない。表情は俯いていて暗い。

少年はここで孤独に生活していた。裕福 とはいいがたいが、まあなんとか明日生きるための命は繋げられていた。

そして、少年には夢があった。「絶対にここを綺麗にしてみせる」という夢が。こんな地獄みたいな場所で、純粋な気持ちを持つていられるのは、少年の心が綺麗だという証拠だろう。

毎日毎日必死にスラム一帯のゴミを拾っていた。食事はゴミに紛れている残り物やリンゴ。これでもまだいいほうだった。酷い日は何も見つからなかった。飲まず食わずの日が続くことさえあった。一度、汚水を口に運んでしまったことがあった。その時は生死の境目をさまようほどの高熱を発した。それでも少年は、食事ができない日があっても、ゴミ拾いは止めなかった。ここを綺麗にしたい、という気持ちだけが、少年を動かす原動力となっていた。

そして、その夢が叶うときがやってきたのだった。

ここに工場が建設されるとのことだった。最初は純粹にうれしかった。ここがただ汚いだけの、何の役にも立たずに放置されているのが嫌だった。それは少年にはとっては吉報だった。

工場の建設が始まった。希望するものは工場建設の下働きができ

た。もちろん、少年も参加した。

月給五万円。

決して多くはない額だが、今までお金さえ得られなかった彼らにとつてはまるで財宝を手を持ったかのような感覚だった。他の労働者はそれを娯楽や服、食べ物に大いに使った。だが少年は違った。生きていくために必要最低限の食にしか使わなかった。年頃の男の子がしそうな、欲しそうなものにも使わない。ただ余った分は貯めた。

しかし、この都合のいい給料の給付はそう長くは続かなかった
否、続くに続くが、それは労働者本人の体次第であった。

工場側の労働者の扱い方が劣化していったのだ。休息の時も与えず、水も与えず、ただひたすら労働。日本で考えたら労働基準法を破る働かせ方。

それが数カ月に渡って続いた。

そして少年は八歳になった。この年は普通に考えたら小学校二年生くらいだ。それでも、長きに渡って働き続けていた。死人だって出ている。その中で、八歳の少年が働いている。それはもう化け物じみていた。

だが、労働者たちも黙っていなかった。

遂にストライキが起きた。

無論、少年も参加していた。

しかし、それを工場側の人間たちは武力によって鎮圧させた。そして言った。「もう抜けられると思うなよ。私たちに逆らったら命はない。もうすでに貴様らの命は私の手の中だ」と。

このまま完成するまで働いてもらう、と付け足した。

もう自由はない。異様に、その言葉が少年を傷つけた。

では、これから何を生き甲斐にして生きていけばいいんだろう？

憂鬱だった。

死にたくもなかった。

だがそこで、ある感情が少年を支配した。

そつだ。だったらあいつら全員殺つちやえはいいんだ。こんなことを平気でやってのけるあいつらをみんな殺つちやえはいいんだ。

負の感情。それが少年の心を支配した正体。

まだ幼いうぶな少年の心を邪悪な感情が支配した。

少年は逃げ出した。

汚い道を一心不乱に走つた。

かといって、その目的は簡単に達成できるものではなかつた。当然、少年もそのことくらいは分かつていた。だからこそ、逃げ出すという選択肢を選んだのだった。

案の定、懐には日本円にして三十万円というお金が貯金として残つていた。今まで少年がコツコツと貯めてきたお金だ。

少年は逃げ切れた。

その後、少年はそのお金でありとあらゆる学問を学んだ。血眼になつて。

数年後、少年は『魔法』という領域にたどり着いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4263z/>

ヴァルキリー家の娘事情

2011年12月14日20時47分発行